

子どもの貧困対策 全国 47 都道府県キャラバン in 三重 報告書



2018年9月24日(月)、「子どもの貧困対策 全国47都道府県キャラバン in 三重」を三重県総合文化センター生涯学習センター大研修室で開催しました。会場には、第一部144人、第二部91人、計151人が、県内各地はもとより、愛知県・岐阜県・静岡県・奈良県・兵庫県からも参加されました。

第一部では、柳瀬和夫・三重キャラバン担当のあいさつに続いて、共催者挨拶を田中功・三重県子ども・福祉部長からご挨拶をいただきました。パネルディスカッションでは『それぞれの立場から見た子どもの貧困』をテーマに、パネリストには、河田あかねさん(三重大学教育学部3年)、鈴木恵さん(松阪市社会福祉協議会嬉野支所)、中村徳久さん(三重県子ども・福祉部子育て支援課長)、柳麻紀さん(学習支援こだま代表)が登場し、コーディネーターは、吉田明弘さん(皇學館大学教育学部准教授)が務めました。一部・二部の司会は、栗原元芳・あすのば子どもサポーターが行いました。



パネルディスカッションでは、柳さんと鈴木さんから、活動報告と子どもたちの抱える困りごとを中心にお話がありました。中村さんからは、三重県の現状と施策についてお話をいただきました。河田さんは、中学生のときに父親を亡くし、それから母親が、兄、妹と自身を育ててくれたが、その中で、部活動での進学や活動を断念せざるを得なかった経験を話しました。今後に向けて

は、官民、団体を超えた連携と協力が必須であり、困っている子どもが一人でも減るのであれば、誰がどんな取り組みであれ、後援や協力する姿勢が必要であるとの提案がなされました。各自の活動が、今後益々他の団体との連携や協力が必要であることを学びました。

第二部は、桑名市で子ども食堂を中心に活動されている対馬あさみさん(NPO法人太陽の家理事長)といなべ市で学習支援をされている松宮卓さん(NPO法人ヴェリタス事務局長)から、それぞれの活動を伺いました。第一部のパネルディスカッションと二人の活動報告を聞き、11グループに分かれ、大学生が進行役を務めました。各自が自己紹介後、『子どもの困りごと、地域の一員として私たちに何ができるか』で、意見交換会を行い、進行役の大学生が発表しました。

参加者からは、「一部・二部を通して、様々な立場の方から子どもの貧困に関わる話を聞くことができ、更に複数の視点で子どもの貧困を考えることができました。貧困は一元的ではなく、親から

子の世代に続く連鎖があると認識しています。子どもの貧困を解決するには、その連鎖を切る必要があります。親と子の両方の支援が必要です。官民一体に限らず、他機関との協力は有効ですが、そこに持ちこむ活動を個人が始められるかが課題です（20代女性）。「一部・二部とも内容が豊富で勉強になりました。特に二部の意見交換会は、いろいろな人と『つながり』ができて良かったです（50代男性）」。

「改めて『貧困』という立場の苦労や自分の今の生活は当たり前ではないと実感しました。自助、公助、共助を意識して共助、公助が増える地域を目指したいと思いました（20代男性）」。「グループワークが面白かった。いろいろな年代、職業の方と出会え、若い学生さんが司会、発表は良いアイデアだと思いました（60代女性）」などの感想が寄せられました。マスコミは、NHKが夕方のニュースで報道し、読売新聞は25日朝刊で、毎日新聞は27日朝刊に掲載されました。



【子どもの貧困対策 全国47都道府県キャラバン in 三重】

日時：2018年9月24日（月）第一部10時～12時 第二部13時～16時

場所：三重県総合文化センター生涯学習センター大研修室（津市一身田上津部田1234番地）

主催：公益財団法人あすのば

共催：三重県

後援：内閣府、朝日町・伊賀市・伊勢市・いなべ市・大台町・尾鷲市・亀山市・川越町・木曾岬町・紀宝町・紀北町・熊野市・桑名市・菰野町・志摩市・鈴鹿市・大紀町・多気町・玉城町・津市・東員町・鳥羽市・名張市・松阪市・三重県教育委員会・三重県社会福祉協議会・南伊勢町・御浜町・明和町・四日市市・度会町

助成：公益財団法人キリン福祉財団

参加者：第一部144人 第二部91人 合計151人（延べ235人）